

令和元年 11 月 14 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和元年 11 月 14 日 (木曜日)

午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委 員 鷲尾 達雄 委 員 青柳 由美子
委 員 大久保 真紀 委 員 荒木 正

4 職務のため出席した者

教育部長	小池 隆宏	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	曾 根 徹	教育施設課長	遠藤 雄一
学務課長	笠 井 晃	学校教育課長	中 山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久	学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之
学校教育課主幹兼管理指導主事	丸 山 巧	中央図書館長	山田 あゆみ
科学博物館長	小熊 博史	子ども家庭課長	田 中 剛
保育課長	田 辺 亮	青少年育成課長	斎藤 裕子

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	安達 紀子	教育総務課長補佐	植 村 裕
教育総務課庶務係長	佐 藤 裕	教育総務課主事	小林 理恵

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 48 号	補正予算の要求について

7 会議の経過

(金澤教育長) これより教育委員会 11 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(金澤教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、鷲尾委員及び荒木委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 48 号 補正予算の要求について

(金澤教育長) 日程第 2 議案第 48 号 補正予算の要求について を議題とする。
事務局の説明を求める。

(田中子ども家庭課長) 歳出補正額は2,625万2,000円である。これは、平成30年度に実施した子育ての駅の運営や延長保育事業などの子ども・子育て支援事業、及び産後ダイケア事業、さらには過去の予防接種による健康被害者への給付事業について、この度、昨年度の事業費が確定したことに伴い、国・県から受け入れた交付金、補助金、負担金をそれぞれ精算し、過剰分を返還するものである。金額の内訳は、子ども・子育て支援交付金返還金が国費・県費同額の1,300万4,000円、妊娠・出産包括支援事業補助金返還金が21万5,000円、予防接種事故対策費負担金返還金が2万9,000円である。

(金澤教育長) 質疑・意見はないか。

(金澤教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議な

いか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(金澤教育長) 次に、協議報告事項に移る。最初に、令和2年度新規事業等について事務局の説明を求める。この内容については公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) では、非公開とする。

————— 会議規則第20条第2項の規定により記録中止 —————

(金澤教育長) 非公開はここまでとする。

(金澤教育長) 次に、長岡市実費徴収に係る補足給付事業費補助金交付要綱の制定について事務局の説明を求める。

(田辺保育課長) 本要綱の制定は、市長の補助執行として行い、長岡市として公表するため報告事項とする。この要綱の説明の前に、まず前提となる部分の話をする。今年の10月から全国一律で幼児教育・保育の無償化が行われた。これまで、私達が副食費と呼ぶ給食のおかず代は保育料に含まれていたのだが、今回の無償化において、国は保育に係る保育料を無償化とする一方で、副食費を無償化の対象にしないこととした。その結果、10月からは3歳から5歳の子どもの保育料は全員無料、その代わりに、副食費は実費負担となった。長岡の公立保育園・幼稚園については、月額4,500円という金額を設定し、10月からの副食費については、口座引き落とし、あるいは納付書による納付ということで、翌月末に納めてもらうこととした。一方で国は、副食費について、年収360万円未満相当の世帯、そして第3子に対しては副食費は免除するという制度を設けた。ここまでの前提の話である。国は、免除制度を設けた一方で、平

成27年度に子ども・子育て支援法という新しい法律を作り、子ども・子育て支援新制度というものをスタートさせていた。その結果、今まであった幼稚園のうち、新制度に移行した幼稚園と新制度に移行しなかった幼稚園が発生した。国が全部の幼稚園を一律に新制度に移行するのではなく、新制度に移行しない手続きをとった園については旧制度のままとしたためである。この新制度と旧制度の違いは、大きく二つある。一つ目は、手続きである。定例会前に施設訪問したひごし中央子ども園で、1号認定、2号認定、3号認定との話があったが、新制度に移行した園は、入園する前に認定の手続きが必要となった。旧制度のままであれば、事前の認定手続きは要らない。次に二つ目が、授業料、いわゆる保育園でいう保育料である。新制度に移行した幼稚園は、授業料は原則、所得階層に基づくというものである。一方、旧制度のままの幼稚園は、国の定めたとおりの授業料とは違う独自の授業料が定められる。この点が大きな違いである。長岡市内の幼稚園の殆どは新制度に移行したが、新潟大学附属幼稚園と宮内白ゆり幼稚園の2園が移行しなかった。新潟大学附属幼稚園は、国の方針として移行しないと決めたと聞いている。そして、宮内白ゆり幼稚園は、法人の方針として新制度に移行しないと決めたと聞いている。先ほど前提のところ、国が免除制度を設けたと話したが、免除制度というのが、新制度に移行した幼稚園を前提としているため、新制度に移行しなかった幼稚園は対象外になる。そのため国は新制度に移行していない幼稚園に対して、新たな補助金の交付制度を設けた。この補助金は、補助対象は全く同じだが、国・県・市が3分の1ずつ負担するという補助内容で、新制度に移行していない幼稚園を対象とした新たな補助制度である。長岡市としても、負担をした上で補助金を交付することから、今回新たに市としての補助金交付要綱を制定したということである。補助対象施設は先ほど述べた2園であり、補助対象者は新制度に移行した幼稚園と全く同じである。施行期日は令和元年10月25日で、令和元年10月分の補助からの適用とする。

(金澤教育長) 質疑・意見はないか。

(金澤教育長) 次に、附属機関等会議報告について 事務局の説明を求める。

(田中子ども家庭課長) 令和元年度第2回長岡市子ども・子育て会議の報告である。10月28日に開催し、委員17名とアドバイザーの小池新潟県立大学教授、関係課の職員19名が参加した。内容は、第2期「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」の基本的視点の修正案を提示するとともに、教育・保育提供区域の設定、また計画の骨子案について議論した。あわせて、保幼小連携ワーキング部会と、小学生の放課後の居場所についての検討ワーキング部会について、今年度の取組状況を報告した。議事に関する委員からの意見・質問等について、主なものを紹介する。まず、第2期「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」についての意見だが、「①基本的視点の修正案について」は、市民に伝わりにくい表現があったため、わかりやすい表現にするようにとの指摘があった。「②教育・保育提供区域の設定について」は、これまで長岡市域を1区域とみなしていたものを4区域に分けることを提案しており、それによる影響の質問があった。これに対しては、4区域に分けることによってよりきめ細かなニーズの把握、あるいはその確保方策を検討できると回答した。さらに「③計画の骨子案について」は、今回定める子育て支援事業が行政改革の中で、財政面で縮小されることのないように、との要望があった。次に、ワーキング部会の報告について説明する。「①保幼小連携ワーキング部会」では、支援が必要な子どもについては、「すこやかファイル」を活用した保育園等から小学校へあがる際の連携の仕組みがあるが、健常な子どもについても活用してはどうかといった意見があった。「②小学生の放課後の居場所についての検討ワーキング部会」では、放課後児童クラブの厚生員に対する発達支援の対応の研修や、発達支援コーディネーターとの連携の必要性について、貴重な意見ももらった。最後はアドバイザーから「子どもの最善の利益を第一に考える」ということは、子どもにとって一番大切なことは何かということが一番最初に考えるということであり、次期“あい”プランの理念がそれに則ったものであることを期待したいとまとめてもらい閉会した。

(金澤教育長) 次期“あい”プランの今後のスケジュールを教えてください。

(田中子ども家庭課長) 第3回会議を11月29日に開催する。事業レベルのものを盛り

込んだ計画の素案を議論してもらおう予定である。パブリックコメントについては今のところ、1月下旬から2月の頭にかけての2週間ほどを設定し、市民の方々からこの素案について意見をもらいたいと考えている。それを受けて、2月下旬に第4回会議を開催し、パブリックコメントの意見を反映したものを示す中で計画を取りまとめ、3月末策定で進めたいと考えている。

(金澤教育長) 教育委員に説明する機会はあるのか。

(田中子ども家庭課長) パブリックコメントをいただいた後、1回説明する機会を設けたい。

(金澤教育長) 質疑・意見はないか。

(金澤教育長) 以上で、協議報告事項を終える。

(金澤教育長) 次に、催し案内等について補足説明のある者は挙手願う。

(山田中央図書館長) 今回、図書館から4件案内がある。まず、読みきかせボランティア養成講座である。図書館主催でボランティア講座を何種類か開催しているが、それを1度経験した方に図書館で読み聞かせボランティアとして活動してもらう流れになっている。既に活動している方でも、定期的に講座を受けてもらうことによって、更なるスキルアップ・ブラッシュアップを目指すものである。次に、くずし字を読んでもみよう ～万葉集の世界～ である。こちらは、図書館所蔵の古文書などをテキストとし、読み解きを行う人気の講座である。今回は新しい年号の令和にちなみ、「万葉集略解」という江戸時代後期の和綴じ本を使用して開催する。次に、12月15日に中央図書館において、チビッコタイムクリスマススペシャルを開催する。当館職員による絵本の読み聞かせ会のクリスマスバージョンや、手遊び・絵本や紙芝居の読み聞かせ・工作などを行う。最後に、12月7日から1月26日まで栃尾美術館において、第13回ながおかのこども作品展を開催する。長岡市の小中学生と園児の作品約800点を展示する。それに伴いこの期間中、冬のおたのしみワークショップなどの関連イベントを企画している。

(金澤教育長) その他に報告事項はないか。

(金澤教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員